

5月25日、電設工業展が開幕 東京ビッグサイト西ホールで

日本電設工業協会

「第59回 2011電設工業展」

▼テーマ：低炭素社会へ～電設技術とグリーン・イノベーション～

▼会期：5月25日（水）～27日（金）初日10：30～17：00、
中日10：00～17：00、最終日10：00～16：30

▼会場：東京ビッグサイト西1・2ホール

▼主催：一般社団法人 日本電設工業協会

電設工業展では3日間の会期中、会場を7つのゾーンに分けて、自家発電装置、直流電源装置、無停電電源装置、新エネルギー・省エネルギー設備及び関連機器、受配電盤類、キャビネット類、監視制御装置、電力関連機器材、制御機器、スマート・グリッド関連資機材などを展示する。

また、25日（水）13：30～15：00は、同会場のレセプションホールBで「低炭素社会に向けた企業の取り組みについて」をテーマに、講師の末吉竹二郎氏（国連環境計画金融イニシアチブ特別顧問）が講演を行う。講演は事前登録制。

入場料・聴講料はいずれも無料。

問い合わせは、電設工業展事務局（☎03-5413-2163
E-mail：info@ecemf.jp）

技術委員会傘下に 2専門委を新設

内発協

内発協では、4月15日（金）、東京・芝1丁目の事務所会議室で、技術委員会を開催した。技術委員会では、平成23年度から実施する2つの新規事業の運営・実施に係る専門委員会として、「防災用自家発電設備の経年劣化調査専門委員会（委員12名）」と「自家発電設備に係る新技術調査・研究専門委員会（委員13名）」の2つの専門委員会の設置を承認した。2つの専門委員会は、技術委員会の下部組織の「ワーキングチーム」として位置づけられており、新規事業の実際の運営を担当することとなる。

平成22年度ガス供給系統 耐震性評価件数は計7件

予備燃料を保有せずに常時及び非常時に都市ガスのみで発電を行う「ガス専焼発電設備」については、総務省消防庁

の告示第1号「自家発電設備の基準」で「地表面水平加速度400ガルの地震動が加えられた後であっても燃料が安定して供給されるものであること」と規定されています。このため、平成6年10月、内発協の中に、「ガス専焼発電設備用ガス供給系統評価委員会」が設置され、地表面水平加速度400ガルの地震動に対するガス導管の耐震性に関する評価が行われています。同ガス供給系統評価委員会により平成22年度中に実施された「本支管及び供内管」のガス供給系統評価件数は合計7件（前年度9件）でした。そのうち、当該設備が確定する前に予め当該設備の近辺までの「本支管のみ」のガス供給系統評価件数は合計5件（前年度9件）でした。

協会カレンダー

- ・委員会等開催情報（5月15日～6月15日）
- ・5月18日（水）：ガス専焼発電設備用ガス供給系統評価委員会（内発協）
- ・5月20日（金）：理事会、総会（九段下ホテルグランドパレス）
- ・5月27日（金）：第1回防災用自家発電設備の経年劣化調査専門委員会（内発協）

第63回 自家発電設備認証委員会審議結果（平成23年4月14日承認分）

サーベイランス

申請者等		対象品目	認証番号	登録形式	有効期限
㈱東芝	社会システム事業部	防災用自家発電装置	B-D-15	24形式	H27.5.8
			B-T-15	9形式	
ヤンマー(株)	特機エンジン事業本部	防災用自家発電装置	B-D-11	35形式	H26.2.28
			B-T-11	9形式	
		常用自家発電装置	J-D-11	1形式	H26.2.28
	J-C-11	1形式			
		常用防災兼用発電装置	K-D-11	7形式	H26.2.28
			K-C-11	4形式	